

都道府県：兵庫県

【経営の概要】

作物名：キク

栽培体系：施設による周年生産

生産規模：30戸、約11ha、年間出荷量約300万本

産地概要：当該地域は、淡路島の最南部に位置し、海岸まで迫った急傾斜地のため、ほ場は不整形で小さなものが多く、ハウス1棟当たりの平均面積は約2aと小さい。しかし、冬期の温暖な気候を生かし、秋ギク、夏ギクを組み合わせ、電照、加温等を行い、施設の高度利用による周年生産を実践している。小さな産地であるが、冬期の赤系品種「花秀芳」は東京市場で高い評価を得ている。

【対策の内容】

①低温性品種への切り替え

「神馬」から低温（花芽分化期：20℃→17℃）で管理可能な「晃花の富士」への品種変更。

②作型改善

昨年度と比較して厳冬期(1～3月)出荷の栽培面積をグループ全体で135a→126aと減らした。

③管理温度の変更

「花秀芳」は、通常植え付け後から収穫まで18℃で管理していたが、栄養成長期15℃、花芽分化期17℃、蕾発達・収穫期10～15℃で管理することで、栽培期間が7～10日間延びたが、燃料代が約30%節約できた。

④新しい保温資材の検討

ハウスの内張カーテンに梱包用資材（いわゆる「プチプチ」に耐久性を持たせたもの）を導入し、省エネ効果、キクの生育への影響などの検討を進めている。

【対策の実践効果】

出荷グループA全体の燃料使用量比較

	①平成17～18年	②平成18～19年	比較①／②(%)
重油 (リットル)	145,849	107,698	73.8
灯油 (リットル)	72,075	51,462	71.4
合計 (リットル)	217,924	159,160	73.0
単価 (円／リットル)	69	18年12月まで77円 19年1月から75円	
金額計 (円)	15,036,756	12,060,808	80.2

※出荷グループAの施設面積は2.7haなので、10a当たり年間使用量は平成17～18年8,071リットル、平成18～19年5,895リットルで約27%減っている。

【今後の課題】

- ・冬期の低温管理における切り花品質や切り花期間の影響と燃料コストとの兼ね合い、並びに周年出荷体系の見直し。
- ・大苗育苗による本ぼ作付け期間の短縮

【問い合わせ先】

兵庫県立農林水産技術総合センター普及部 電話：0790-47-2433